



しんぶん赤旗日曜版 2018 年 1 月 14、21 日号より

元上院議員ウイグバート・タニヤタさん
(基地存続に反対した)

・民間転用された基地跡は、フィリピン経済の強力な推進力になっている。
・米国追従ではない独自の自立外交で、軍事ではなく外交交渉で紛争解決を目指す力が強まった。
・基地存続に賛成した議員の中で、撤去は間違っていたという議員はいない。
・基地がある時、フィリピンとスリープが領土紛争で武力衝突したが、米軍は動かさなかった。そもそも米軍はフィリピン領土を守るために居たわけじゃないから。
・中国の変化に対してどう対応するかが大切。軍事問題で対抗すればますます緊張と対立は深まる。

元国防大臣 オルランド・メルカドさん
(基地存続に反対した)

・現在基地撤去に全く後悔はない。
・基地転用による経済効果
・独立した外交路線をとれ、自国の利益に沿って国の針路を決めることが出来るようになった。
・巨大な治外法権的な米軍基地があると、米国の敵から敵視され、攻撃される根拠になる。
・フィリピンは自立外交、非核兵器政策を憲法で決めている。外交の判断を米国の指図される必要はない。これが自立外交だ。
・基地撤去は外交・軍事でもフィリピンの国益にかなっている。

フィリピンでは植民地時代から続く米軍基地は順次撤去され、最後にスービック基地（オロンカポ市）が残っていた。

1992 年 → 25 年たち → 2017 年

1991 年 9 月 16 日
(比米基地条約の期限が切れる日)

スービック米軍基地は撤去されて、そしてどうなった？

フィリピンとアメリカ政府が調印した新しい基地存続条約を、賛成 11、反対 12 で否決。
→ 1992 年 11 月スービック米軍基地は撤去された。

★ 雇用者数：3 万 5 千人減で 6578 人 → 12 万 6 千人に大激増
(1992 年) (2017 年)

- ・この地域は天然の良港で、空港もある
- ・国別投資では韓国、フィリピン、中国、台湾、インド、日本、米国の順で、合計 2800 社が活動している。
- ・雇用が増えれば消費も増える。ショッピングモールにも人が集まっている。
- ・基地の転用が成功したことは間違いない。雇用を生み、投資を呼び込み、経済成長をささえている。
(基地存続派のリーダーだった上院議員 R・ゴードン氏)

基地存続賛成の理由

- ・基地をなくせば基地雇用が無くなる。
- ・米国の怒りを買う → 投資・輸出が激減し経済の崩壊の危険がある。
- ・外国からの侵略や支配を招く。
- ・アメリカに逆らうとフィリピンは破綻する。

★ 基地撤去後の名目 GDP：
459 億 4400 万ドル → 3042 億 7300 万ドル
(1991 年) (2016 年)

基地存続反対の理由

- ・フィリピン憲法の国家主義、自立外交、非核、人権の規定に違反する。
- ・米国への従属が続く。

★ 基地跡の一部に米軍の有毒廃棄物が放置された事等解決すべき課題もある。



ここに来てよかった。
緑も水もある。
基地転用でフィリピンはいい場所を得た。
平野幸子さん
日本料理店経営

もし仮に沖縄の米軍基地を撤去し、そこを新しい街に造りかえるとしたら・・・
ちよっと見方を変えて考えると、そこは沢山の工事が眠っているようなもの。経済発展の可能性が秘められていることが見えてきます。
呉屋守将さん
金秀グループ会長